

総会・事前打合せ会を開きました！

令和4年7月2日(土)午前10時過ぎ、もとす教育者道德研究会総会並びに事前打合せ会を、瑞穂市総合センター5階第1会議室において開きました。第59回道德教育研究会岐阜瑞穂会場の運営責任者となりますので、通常の講演会ではなく事前打合せ会となりました。ご多用中にも拘らず参加してくださいました7名の皆様、誠に有難うございました。

総会の進行を大野副会長、挨拶と役員紹介を森山会長、昨年度会務報告を森山書記、今年度活動案・予算案を森山書記が行い、それぞれ承認されました。最後は、谷村副会長の挨拶により無事終了しました。

森山会長の挨拶要旨「この会は旧本巣郡2市1町にお住まいかお勤めの方でつくる(生き方を考える)会です。各市町教育委員会ははじめ校長会、岐阜もとすモラロジー事務所等多くの方々に支えられ、14年目を迎えます。今年度は大役を果たす番になりますので頑張りましょう。『道德で人と社会を幸せに』を指針に、地元の道德教育振興に貢献できますよう、学校の子どもたちや先生のお役に立ちたい思いです」



左から 大野副会長、森山会長、谷村副会長、そして会場の様子

事前打合せ会は、森山会長の司会で、忌憚のない意見交流をしながら係員との相談も含め、当日を想定した準備や確認を行いました。

令和4年度 もとす教育者道德研究会役員・理事

顧問	林 明夫	北方町教育委員
会長	森山 政紀	岐阜県モラロジー協議会事務局長
副会長	谷村 三奈	瑞穂市立本田小学校教頭
	大野 琴美	本巣市立一色小学校教頭
	北村あずさ	北方町立北方西小学校教頭
	神谷 肇	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
書記	森山 政紀	兼務
会計	鈴木 伸一	瑞穂市立穂積小学校教諭
監査	神原 重典	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
	神谷 美里	岐阜もとすモラロジー事務所女性ク担当
理事	土川 恵美	瑞穂市立本田小学校長
	長谷川昇児	北方町立図書館長
	森 健治	岐阜もとすモラロジー事務所副代表

※今年度、理事枠の本巣市道德部会顧問は空席

令和4年度 今後の主な活動計画

7月28日(木) 第59回岐阜県道德教育研究会岐阜瑞穂会場

13:00 瑞穂市総合センター 5階会議室(第1~3)

※申込連絡者の参加費(千円)を岐阜もとす事務所・本会が負担。

12月24日(土) 役員・理事会 17:00 北方町きらり会議室

2月18日(土) 実践研究会 10:00 北方町きらり会議室

※市町を代表して道德教育の実践を発表して下さる方を募集しま

す。自薦・他薦大歓迎(今年度は、特に本巣市・北方町から)

◎活動を報告する会報カラー版を年3回(今年は8月、9月、3月)

発行・配付の予定です。

令和4年度

第59回 道德教育研究会

～道德教育の新たな充実をめざして～

開催のねらい

- 1 知徳一体の教育をめざす
- 2 教師自身が、よい生き方をめざし「思いやりの心」を学び育てる
- 3 道德科の充実と学校教育の課題に応える

モラロジー道德教育財団について

モラロジー道德教育財団は、道德教育を推進する内閣府認定の公益財団法人です。大正15（1926）年創立、道德科学（学術名：モラロジー）の研究および倫理道德の研究、道德に基づく社会教育、学校教育、生涯教育を推進する教育団体です。法学博士・廣池千九郎によって創立、研究・教育・出版事業等を展開。また全国500を超えるモラロジー事務所と共に、各地の教育委員会等の後援のもと、セミナーなどを開催し、生涯を通じて学びを深める「生涯教育」とともに、親から子へ、子から孫へと世代を重ねて道德性を育む「累代教育」を提唱しています。



公益財団法人

モラロジー道德教育財団

◆ 後 援：文部科学省
各地教育委員会

◆ 協 力：麗澤大学

道德教育で大切にしたい5つの視点

～モラロジーの観点から～

効果的な道德教育は、教える側（教師）の人間性が向上し、子どもたちへの感化力が高まってこそ可能となる。こうした考えのもと、昭和38（1963）年に教育者研究会として始まった道德教育研究会。教員同士が道德科の課題を共有し、解決に向けたプログラムを企画していくと同時に道德的な生き方とは何かを学び、教員自らの人間的成長と教育力の向上をめざします。

1

生きている喜びやありがたさを大切にします。

私たちは、大自然や社会の働きの中で生かされ、育てられ、守られています。このことを自覚し、自然への感謝と畏敬の念をもつことによって、謙虚な気持ちになります。これが互いに助け合い、補い合う心で自他を活かし、社会を支え永続的な発展に尽くそうという大きな志をもつ出発点になります。自らの人生に確かな目的をもった時、家庭や仕事にかける営みに意味を見つけることができます。

2

先人の存在や恩恵に気づき、感謝の心を育みます。

大自然の法則にかなう生き方をめざし、無私の精神で生きたのが、「人類の教師」と呼ばれる孔子、釈迦、イエス、ソクラテスなどの聖人たちです。私たちの生活は、聖人をはじめ、私たちを生み育ててくれた親や祖先、社会や国家を築き発展させてきた先人など、多くの恩人によって支えられています。私たちは、その恩恵に気づき、感謝するとともに、その精神を受け継ぎ伝えていくことが大切です。

3

人を心から大切にす、深い思いやりの心を育みます。

釈迦は『慈悲』、孔子は『仁』という言葉によって「人を慈しむ心」が大切であることを教えました。聖人たちは説くだけではなく、人々の模範になりました。聖人たちは深い思いやりの心で人々に接することで、人々が主体的にこれまでの生き方を改め、よりよい生き方をめざすように導きました。このように、自らが真理を求めて学び、情理円満な人格を養う努力を積み重ねると同時に、誰もが持っている深い思いやりの心を他者から引き出すことが、自他の道德的成長につながります。

4

「三方よし」の道德に努め、質の高い道德を行います。

国際社会における日本への信頼は、先人のたゆみない献身と努力によって築かれたものです。私たちが現在、手にしている権利も、多くの先人によってもたらされたものです。真の道德とは、自分も相手も第三者もみな、平和と幸せの内に暮らせるように努めることです。したがって、先人の功績を自覚し、時間的にも空間的にも、大局的な視野から地域や国や国際社会にも目を向けて、自ら率先して質の高い道德を行い、よりよい社会の実現をめざします。

5

一人ひとりがよりよく生き、幸せで安心できる社会をめざします。

少子高齢化社会や「Society5.0」の到来、グローバル化の一層の進展、環境問題など、私たちは社会の激しい変革の中にいます。また、人はそれぞれに個性をもち、就く職業も様々です。しかし、どのような人生や社会においても大切なことは、人々との生活の中で道德性を向上させていくことではないでしょうか。誰もがもつ、よりよく生きようとする心を育む努力を続け、自他を真に大切にし、深い思いやりの心で接していくことが、幸せで安心して生活できる社会や未来の発展につながります。